

農家に泊まろう！



中 学生の修学旅行といえば京都などの見学型が定番でしたが、近年では地方へ訪れ、農家の家に泊まって農村体験をしてもらう「農家民宿」を組み込んだ旅行の需要が高まっています。また、夏休み期間中を利用して林間学校として訪れる学校も増えています。

都市部からの教育体験旅行を受け入れます。



2

一般家庭に宿泊し、農村の暮らしを体験してもらいます。



農家でなくても農村体験ができれば大丈夫！



体 験内容は各家庭によってさまざまですが、野菜収穫・種まき・ガーデニング、そば打ち・わら細工・うどん作りなど、それぞれ得意の農村体験を提供しています。また、農家ではない家庭でも受け入れは可能です。その場合、農作業は別の家庭で一緒に行くなど、みんなで協力して受け入れています。



3

最終日は、笑顔と涙でお見送り。



た った一泊でも、一緒に汗を流して働いて同じ釜のご飯を食べると、家族のような絆が生まれます。お別れの時は、生徒だけでなく受け入れ農家も別れを惜しみますが、あちらこちらで聞こえてくるのは「また、遊びに来るね」という声です。このようなつながりによって、安曇野ファンが増え、子どもたちの第二の故郷として安曇野に帰ってきてくれることを期待しています。

安曇野市農家民宿連絡協議会とは？

次代を担う子どもたちが農業や農家生活を実体験することを通じて、農業や農村地域で育まれる食の大切さを学び、その経験が生きる力の糧となることを願い平成27年4月に発足。都市部で暮らす中学、高校生を対象とした農業体験事業を進めます。

かつては都会に住んでいても「おばあちゃんの家」など、「故郷」と呼べる田舎がありました。しかし、現在では、そうした場所のない家庭が増えていくようです。市と市農家民宿連絡協議会では、多感な時期に修学旅行という形で安曇野を訪れてもらうことで、安曇野を第二の故郷と感じてもらえればと、「農家民宿事業」に取り組んでいます。本年度は千葉県市川市立第三中学校を皮切りに、関東・関西地域から9校約1000人の生徒を受け入れます。今後は、日帰り体験や、海外の生徒の受け入れも目指していきます。

安曇野を第二の故郷に

地域おこし協力隊
● Profile 長谷川 愛さん

茅野市出身。大学から8年間名古屋市で過ごし、4月から地域おこし協力隊として農家民宿事業に奮闘中！「子どもたちや農家さんの笑顔を見ると、もっと多くの人に農家民宿を知ってもらい、関わって欲しいという思いが強まりました」

